

第3次京丹後市総合計画

(抜粋)

令和7年2月
京丹後市

1. 総合計画とは

総合計画は、総合的かつ計画的にまちづくりを推進するための計画であり、市民と行政によるまちづくりの方向性を示すもの（京丹後市のまちづくりを共有する手引書）です。また、本市が定める計画の最上位に位置し、具体的な取組等を示す各分野別計画は総合計画に即して策定します。

2. まち・ひと・しごと創生総合戦略との統合

本市では、国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」や京都府の「第2期地域創生戦略」を踏まえ、令和3年度から令和6年度までを計画期間とする「第2期京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少対策に取り組んできました。

今回、第3次京丹後市総合計画（以下、「本計画」とする）を策定するにあたり、人口減少対策を含め、まちづくりを総合的・一体的に取り組むため、本計画と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の内容を統合し、本市の持続的な発展を目指します。

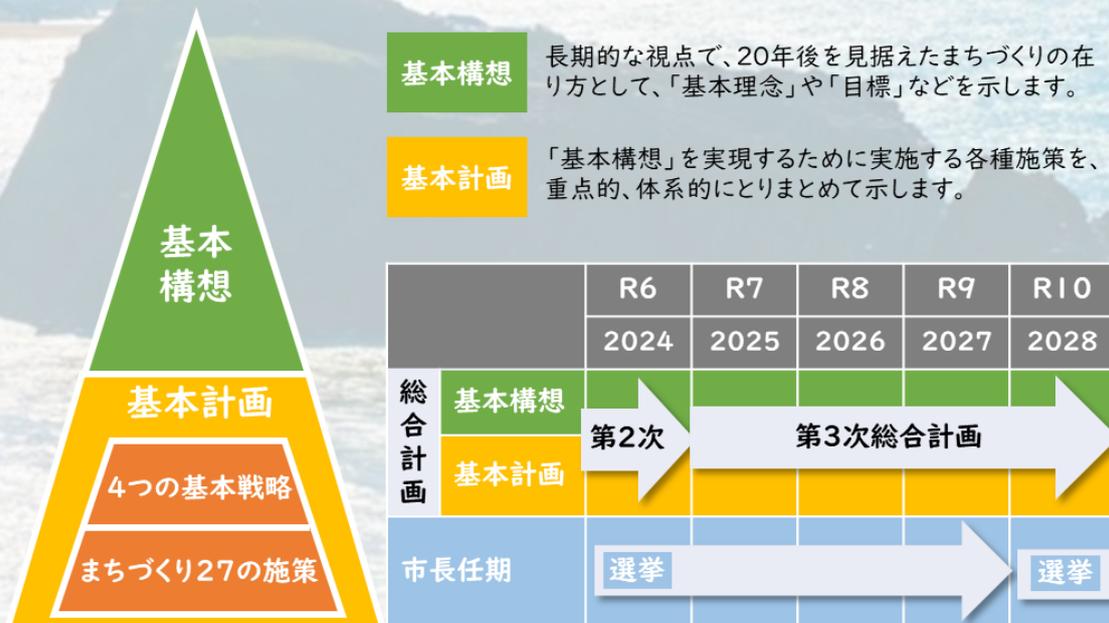
※国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、令和4年12月23日の閣議決定により、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に変更されました。

3. 総合計画の構成と期間

本計画は、長期的に変わらない、目指すまちのビジョンを示す「基本構想」と、当面実施する施策をまとめた「基本計画」で構成します。

また、社会・経済情勢の変化が激しい時代に対応し、短期的に見直し変革していくために、市長任期にあわせた4年間の計画とします。

【総合計画の構成と期間】



基本構想

長期的な視点で、20年後を見据えたまちづくりの在り方として、「基本理念」や「目標」などを示します。

基本計画

「基本構想」を実現するために実施する各種施策を、重点的、体系的にとりまとめて示します。

基本
構想

基本計画

4つの基本戦略

まちづくり27の施策

総合
計画

市長
任期

選挙

選挙

第3章 都市機能構想

1. 大動脈と直結する「大交流のまちづくり」

(1) 山陰近畿自動車道の整備により「まちづくりの第二ステージ」へ

高速道路網及び公共交通網が整備されることにより、国内各地との「時間距離」が短縮され、より一層の地域活性化が期待されます。

なかでも、山陰近畿自動車道は市内最大の商業集積地域近郊、都市拠点にあたる峰山地内へ近く接続する見込みとなり、さらに、同自動車道の兵庫県境までの市内全線ルート決定を控え、いよいよ、今後のまちづくりをより具体的に展望していける時期を迎えます。

山陰近畿自動車道の延伸 + DX の活用

(縮まる物理的な時間と距離)

(オンラインで距離と時間の制約が最小限×地域資源を最大限活用)



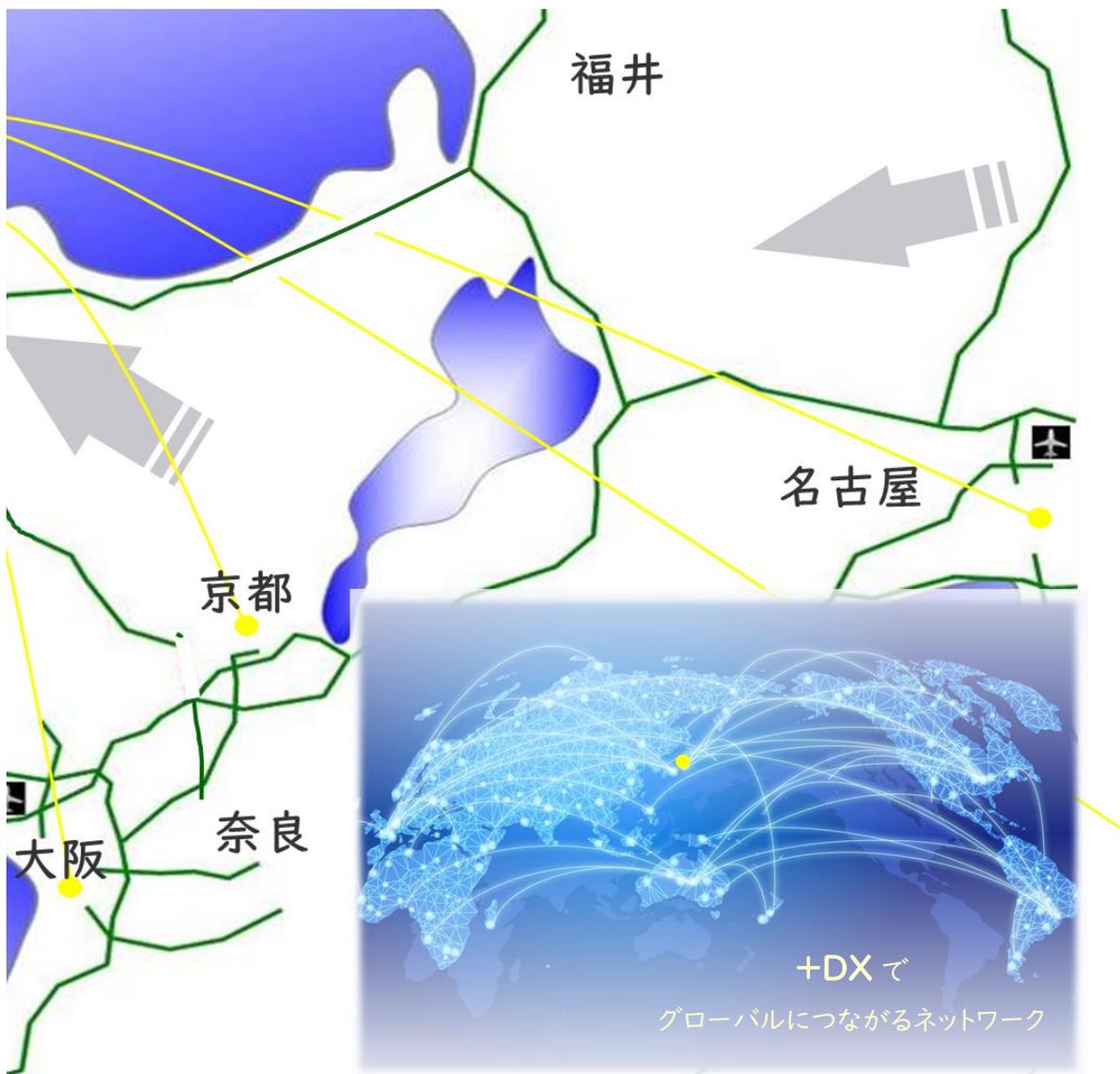
(2) DXで「都市部・世界」と「未来」につながる

さらに、ICTなどの技術が発展し、時間や場所に縛られず都市部や世界とつながっています。都市部との物理的な距離のある本市にとって、地理的な距離の制約が小さくなることが他の市町より大きな意味を持つため、本市特有の自然等の魅力を強みに生かした、新たなまちづくりを進めていく必要があります。

このような好機を捉え、移動負担軽減による観光振興、企業誘致等の産業振興、災害・事故時の輸送機能の確保、高次救急医療機関への搬送時間縮減に加え、DXを活用して、日本や世界の都市・地域と直接つながることにより、場所・地域にとらわれない住民サービスの提供や、本市の自然・歴史資源等と未来技術を融合した新たな事業・サービスの創造など、グローバル※な「未来創造型の次世代まちづくり」の実現を目指します。

※グローバル

「グローバル」と「ローカル」を組み合わせた造語で、世界的な視点で見ることと地域の特性を活かすことを融合させた考え方



1. 多極ネットワークによる「多彩で強靱な一体型のまちづくり」

人口減少・少子高齢化が進展し、生産・消費等の地域経済の縮小が懸念されるなか、未来を担う若者世代を含めて人々を惹きつける都市となるため、都市機能の集積や質の高いサービスの提供、新たな価値の創造・イノベーションを生み出すことが必要です。

そのため、核となる拠点を形成し、道路や鉄道、公共交通で結びリアルな連携に加え、場所や時間の制約が少ない DX によるデジタルネットワークの連携を図ります。リアルとデジタルの両面で各拠点を結ぶ「多極ネットワーク」により、市域全体から各拠点到アクセスできるとともに、市外との交流を面的なものとし、多彩で強靱な一体型のまちづくりを実現します。

多極ネットワークとは

医療・福祉施設、商業施設や住居等を一定まとめた拠点の整備に加え、その拠点へ公共交通や DX を利用しアクセスすることで、自家用車を過度に頼ることなく、医療・福祉や商業機能などの日常生活に必要なサービス等が、市内全域の住民にとって身近に存在する考え方。

都市機能イメージ図



主要国道	山陰近畿自動車道	山陰近畿自動車道 延伸イメージ	ICアクセス道路	都市拠点	地域連携軸	デジタルネットワーク
主要府道	インターチェンジ		鉄道・駅	地域拠点	広域連携軸	市外とのネットワーク

【拠点の形成】

利便性の高い機能を集積する都市拠点、日常生活機能に加え6つの町それぞれの地域特色に応じた機能をもつ地域拠点の形成を目指します。

(1) 都市拠点

- 市民、市外来訪者等の多様な人々の滞在・交流を促進し、新たな暮らし方・働き方に対応する拠点を形成します。既存商業機能に加え、子育て、商業、芸術文化、娯楽、交流など多くの人が集まる都市機能が集積されたエリアを形成します。
- 国道312号と482号の交差点付近から商業機能の立地が進む国道312号沿線周辺部を都市拠点に位置付けます。市の新たな玄関口として、市域内外からのアクセスとしての交通結節機能としての交通拠点の形成を目指します。

(2) 地域拠点

- 日常生活に必要な生活機能や居住機能の集積と都市機能の分担のほか地域資源を活かした各町の生活の拠点を形成します。
- 各町の市民局周辺の市街地を地域拠点に位置付けます。
- 各地域では、既存の街並みの風情や良さを活かし、また空家や公共跡地等も資源として活用に努め、街並み全体に未来と伝統・歴史といった新旧の調和を取り入れていきます。

【軸の形成】

市外と市内各地域等を結ぶ「広域連携軸」と、拠点間や隣接市町を結ぶ「地域連携軸」を位置付け、市内全域のアクセス性を向上させるネットワークを形成し、人・モノ・ことの流動や防災性を向上させる山陰近畿自動車道を軸としたまちづくりを目指します。

(1) 広域連携軸

- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、鉄道、公共交通を広域連携軸に位置付けます。
- 山陰近畿自動車道の全線開通を促進するとともに、市外と連携した公共交通により各地域へのアクセス性を高め、インターチェンジ周辺の交流支援機能の向上を図ります。

(2) 地域連携軸

- 国道及び主要地方道、鉄道やそれを利用した公共交通を地域連携軸と位置付けます。
- 国府道の整備促進や、空白地の無い公共交通の整備により、機能を補完する拠点間の連絡性の向上を図ります。

※都市機能構想の具体的内容は、令和7年度策定予定の「都市計画マスタープラン」及び「立地適正化計画」により示すこととしています。

施策 09 快適な都市空間の形成

土地利用

目標

若者の定住、交流人口の増加を促進するため、職住近接の利便性の高い都市環境を築くとともに、人とみどりの共生する自然環境を実現します。

主に取り組む施策

(1) 多極ネットワーク型のまちづくりの推進

- 本市の将来都市づくりの基本的な方針である「京丹後市都市計画マスタープラン」の改定と、「立地適正化計画」の策定により、都市拠点・地域拠点間をネットワークでつなぐ多極ネットワーク型のまちづくりを計画的に推進します。

(2) 計画的な土地利用の推進と魅力的な景観の保全・形成

- 「京丹後市都市計画マスタープラン」及び「立地適正化計画」に基づき、農地、森林、海辺などの自然環境と都市機能とが調和した計画的かつ合理的な土地利用の調整を図り、ユネスコ世界ジオパークに代表される海や山、長い年月をかけて形成された街なみなど魅力ある景観の保全・形成を図ります。

(3) 新たな都市拠点の形成

- 国道 312 号と国道 482 号沿いにおいて、商業系用途地域等の活用により、多くの人が集まる本市の拠点にふさわしい都市機能の誘導・集積を図り、商業・交流機能の向上を図ります。
- 国道 312 号と国道 482 号の交差点付近については、都市拠点の整備を進めます。

(4) 地域拠点の拠点施設整備の推進

- 地域拠点の形成により、その「地域の顔」となる市街地機能を継承しつつ、日常生活に必要な諸機能の集積を図り、地域資源を活かしたまちづくりを進めます。
- (仮称) 網野交流センター・交流広場整備基本計画に基づき、コミュニティ機能、集客機能、屋外付帯機能を併せ持ったまちの未来を育む交流拠点の形成を図ります。
- 宇川地域拠点施設整備基本計画に基づき、生活支援機能、子育て支援機能、文化・交流機能を併せ持った多世代が交流する第3の居場所として、「安心して暮らせる」、また、「希望を持って暮らせる」よりどころとなる拠点施設の整備を進めます。

(5) 都市機能を高める整備の推進

- 広域幹線道路や鉄道などの整備効果を活かし、道路ネットワークの強化や公共交通の利便性の向上を図ります。
- 事業化の目途が立たない路線の廃止や変更など、都市計画道路の見直しを進めます。

(6) 都市拠点公共施設の整備

- 京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画に基づき、妊娠期から成人までの一体的なサポートが可能な子育て支援機能、学びの拠点として気軽に立ち寄れる図書館機能、文化・芸術・スポーツ活動支援機能、市民活動支援・交流機能を併せ持った拠点施設の整備を進めます。

目指す目標値

指標名	単位	現状値 (2023年度)	目標値 (2028年度)
都市計画道路の整備延長	km	9.6	15.8
都市公園の供用面積	ha	23.2	30.0

関連する個別計画

- 京丹後市都市計画マスタープラン
- 京丹後市都市拠点構想

私たち市民
にできること

- ・まちづくりについて、地域で話し合うこと
- ・地域資源を守るために、環境保護活動やまちの美化活動に参加すること

～現状・課題～

- ・「京丹後市総合計画」の都市機能構想を推進するため、策定した各計画に基づき、土地利用計画と都市基盤整備を推進することが課題です。
「京丹後市都市計画マスタープラン」(平成28(2016)年)
「京丹後市都市拠点構想」(令和5(2023)年)
「京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画」(令和6(2024)年)
「(仮称)網野交流センター・交流広場整備基本計画」(令和6(2024)年)
「宇川地域拠点施設整備基本計画」(令和6(2024)年)
- ・山陰海岸ジオパークに代表される風光明媚な自然資源や歴史的・文化的な資源など良好な景観を有しています。資源の保全や形成を促進し、地域の魅力が伝わるまちづくりに取り組むことが課題です。
- ・山陰近畿自動車道の京丹後大宮 IC が開通(平成28(2016)年)し、国府により大宮峰山道路の整備や網野～久美浜のルート検討が進められており、その整備効果を市域全域に波及させるためのコンパクトプラスネットワークのまちづくりを推進します。
そのために、峰山インター線の整備により新たな市の玄関口となる都市拠点や都市計画区域外を含めた地域拠点の形成や、道路需要や未整備要因を踏まえた都市計画道路の見直しを進めることが課題です。

※「京丹後市都市計画マスタープラン」の改定及び「立地適正化計画」の策定は、令和7(2025)年度予定